

# 狛江の庚申塔

平成6年3月31日発行

狛江市和泉本町1-1-5

〒201 電話 (3430) 1111

昔は年や日を干支で表わすことがありました。十干（甲乙丙丁戊己庚辛壬癸）と十二支（子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥）を、甲子、乙丑というように順序をかえずに組み合わせると六十通りとなります。壬申の乱や戊辰戦争は事件の起きた年の干支で名づけられたものです。

庚申信仰はもともと中国の道教に由来しています。人の体のなかには三尸という三匹の虫が住んでいて、庚申の日の夜、人が眠るのを待って天に上り、人間の犯した悪い行を天帝（天の神）に告げます。天帝はこの報告によって、人の寿命をちぢめてしまいます。人は誰でも長生きをしたいので、庚申の夜は眠らないで、三尸が体から抜け出すのを防ぐのです。この眠らない行事が庚申待です。平安時代のはじめに留学僧などによって日本に伝えられ宮廷で行なわれました。中世になると武士たちの間にも広まりま



① 地藏庚申塔（慶岸寺）

す。室町時代の終りごろには、修験などの積極的なすすめもあったようで、農民たちが講を結成して庚申待を行なうようになりました。

庚申の日には講中が順番で宿（会場）を受けもち、青面金剛の掛軸をかけて拝み、念仏や真言をとなえて鶏が鳴く（夜明け）のを待ちました。こうした行事を何年か続けた記念として庚申塔を造立することが多かったようです。

狛江には庚申塔が25基残っています。地藏像と猿像が各1基、青面金剛像が16基あります。猿田彦大神と刻む1基は「庚申は猿田彦」という神道家の説をとり入れたものです。庚申塔のほとんどに、建立した年月日、村名、講中の人数や姓名などが刻まれています。また「見ザル・聞カザル・言ワザル」の三猿が多くの庚申塔に見られます（狛江で12基）。鶏二羽（オスとメス）が刻まれることもあります（狛江で3基）。

以下、狛江のいくつかの庚申塔を紹介しましょう。

## ① 慶岸寺の地藏庚申塔 寛文2年（1662）

多摩地方でもっとも古いと思われる庚申塔が、岩戸北四丁目の慶岸寺墓地入口にあります。地藏が刻まれています。像の上に「カ」（地藏を表わす梵字）が刻まれ、像の左右に「奉造立／庚申之歳奉供養為二世安楽也／寛文二<sup>五</sup>年二月十日／大願慶岸寺施主八人岩戸村」という銘文があります。「庚申之歳」というのはどういう意味かわかりません。慶岸寺の住職が発起人となり、庚申講のメンバー八人が施主となって造ったものです。地藏の石塔を建てて二世（この世とあの世）を安楽に過ごせるように願ったのです。庚申の本尊として青面金剛が全国的に普及するのは延宝（元年＝1673）ごろからで、それまでは阿弥陀・観音・地藏などの像を刻んだ庚申塔がかなりつくられました。

② 泉竜寺の一猿庚申塔 貞享3年（1686）

元和泉一丁目の泉竜寺の鐘樓の西側には11基の石塔が並んでいますが、その左はしから二番目にお猿さんを本尊に仕立てた庚申塔があります。お猿さんは烏帽子を冠り、衣をつけて合掌しています。庚申の申は十二支では猿があてられています。庚申塔には山王信仰もからんで猿がしばしば登場しますが、このように衣装をととのえたいかにも仏様といったお姿は珍しいことです。上部左右には雲にのった太陽と月があります。庚申塔によく見られるデザインです。「奉造立／武州多麻郡泉村／干時貞享三<sup>〃</sup>天十月九日／同行／廿人／施主／敬白」という銘文があります。

③ 中和泉五丁目の青面金剛塔 宝永元年（1704）・文化元年（1804）

多摩川住宅の東、ハケの上の品川道に接して銅板葺の立派な庚申堂が完成したのは平成5年のことです。宝永元年と文化元年の青面金剛像の庚申塔が納められ、いつもお花が供えられています。この付近では18軒の人たちの庚申講が現存しています。

青面金剛は不動さんのように恐ろしい顔をした仏様です。普通は六臂で、中央の手は合掌（または剣と人身）、左側上下に<sup>〃</sup>矛・矢、右側上下に宝輪・弓を持ちます。この宝永の塔は合掌・斧・矢・索・弓となっています。青面金剛が斧や索を持つ例はあまり多くありません。上部左右に日月、青面金剛の下にはかなり大きな三猿、基部には蓮の葉と蕾が浮き彫りされています。「奉造立庚申像一尊武州多麻郡和泉村 敬白／干時宝永元<sup>〃</sup>天霜月良辰同行三十老人」の銘があります。

④ 中和泉四丁目の文字庚申塔 安政5年（1858）

現在は品川道にそった駐車場の隅にありますが、以前は道をへだてた東側の角<sup>みど</sup>にありました。正面には「庚申塔」という文字が大きく彫られています。右側面に「右地藏尊道／願主／栗山栄五良」左側面に「左／江戸青山道／安政五年八月日」、台石正面には横書きで「西府中道」とあります。地藏尊道は泉竜寺の子育地藏参詣の道ということです。このように三叉路や十字路に立てられる庚申塔には道しるべが記されることがあります（狛江で5基）。（狛江市文化財専門委員 清水長明）



② 一猿庚申塔（泉竜寺）



③ 青面金剛塔（中和泉五丁目）



④ 文字庚申塔（中和泉四丁目）